

令和4年度 いのちの授業 事例集（幼稚園こども園）【健康】

掲載数

16

地区	学年	教科等	テーマ	内容	参考事項（講師・教材等）
1 相模原市	幼複合	健康	防災教育 「いのちを守る行動」	園では毎月避難訓練等を計画しており、今回は地震・火災を想定し訓練を行った。園内放送、保育教諭の声掛けで子どもたちに知らせると、訓練を重ねていることで煙を吸わないように口に手を当てるなどの行動をする児も増え、落ち着いて避難することができるようになっていった。避難後に、いのちを守るための合言葉「お・は・し・も」について、子どもたちと確認してみると、約束を思い出し理由を考えて答えが返ってきた。今後もいのちが大切だということを伝え、そのためにどうしてそのように行動するのかを共に考え、子どもたちが理由を理解して自分自身で自分のいのちを守れるよう繰り返し話している。	
2 相模原市	年長	健康	性教育 「みんな大事な子」 ・いのちの大切さ ・かけがえのない存在について	いのちの始まりは、針の穴にも満たない卵。その小さな卵が、お母さんのおなかの中で、10か月もの間大事に守り育てられて生まれてきたこと、自分がいまここに存在できていることを知らせた。また、誕生時の周囲の人たちの喜び、それから現在までの成長過程を考えていく中で、自分がかけがえのない存在であることを実感し、同じく友達も「大事な子」であること、誰もがかけがえのない存在であることを理解するとともに、自分を支えてくれる人たちの存在に気づき、感謝の気持ちをもって生活することができるようになることに配慮し、自尊感情と思いやりの心を育てる機会とした。	
3 中	年中	健康	プライベートゾーンについて	友だちの胸やトイレの中を覗くなどのイタズラが出てきたため、絵本を用いてプライベートゾーンについてや、身体のお約束(身体の大事な所を見て良いのも触って良いのも自分だけ)についての話をした。また着替えやトイレなど普段の生活の中で想定できる場面でも、お約束を守るにはどうしたら良いかも問いかけた。子ども達は、絵本をよく見ていて、実際にイタズラしていた子も、「勝手に見るのはダメなんだよ」と友達と話したり、イタズラされた女兒も「今度は嫌だって、ちゃんと言う」と話してくれたりする姿が見られた。自分の身体は大切であり、また自分以外の人の身体も大切であることが子どもたちなりに理解できたようだった。	参考教材 絵本「だいじ だいじ どーこだ？」 作・遠見才希子
4 中	幼複合	健康	カイコの飼育を通して、生き物の命の大切さや生長の過程を知る。	5月中旬に卵から孵化したカイコを保育室で育てていく。カイコは桑の葉を食べて成長することを知らると毎日のように桑の葉をあげる様子が見られた。登園の際に見つけた桑の葉を持ってくる幼児やカイコから出た糞を掃除する幼児など、日々、生長するカイコの世話を皆で行った。絵本や図鑑を見て、幼虫から繭に変容することを知ると一層興味を深めていた。絵本や図鑑と同じような繭ができた時には、繭の不思議さに驚きの表情を見せていた。カイコが卵から孵化し、繭になるまでの成長の過程を知ると同時に生き物の命を大切に育てる経験をすることができた。	

5	中	年少	健康	地震	<p>入園当初は、避難訓練というと少し怖がる子もいたが、毎月いろいろな想定をしながら行っていることで、園児もどう自分の身を守るか理解はしてきている。</p> <p>ある日の降園後、震度3の地震が発生した。その翌日に、家庭でどのような行動をとったかを尋ねた。子ども達からは、「机にもぐってじっとしていた」「(頭を抱えるポーズをして)カメのポーズをした」「ママが守ってくれた」などと話してくれた。</p> <p>突然の地震でも日頃の訓練が生かされていると感じた。また、同じ日に、地震についての紙芝居を読むと、低い姿勢を素早く取ることの大切さが内容にあり、子ども達と一緒にカメのポーズをして、避難方法について再確認した。</p> <p>自身の身を自分で守る方法や命は1つしかないことを年齢に合わせて話をした。</p>	<p>1月11日(水)県西部震源の地震を体験する</p> <p>↓</p> <p>紙芝居「じしんがきたときどうするの」</p> <p>↓</p> <p>自分の身を守る</p>
6	中	年中	健康	・自分だけの大事なところ	<p>ふざけて友達の排泄中にトイレを覗いたり「オマタ～」や「カンチョウ～」と言いながら性器を触る姿があった。そこで、7～9人のグループに分かれて動画を見ることにした。動画を見る前は、保育教諭の「自分の体の大切な部分はどこか？」の質問に、自分の胸を触り、「心」「命」と答えていた。また「どうしてプールの時は水着を着るのか？」と尋ねると「寒いから」「水が冷たいから」と日頃感じていることを伝えてきた。視聴後振り返ることで、「体を見られたら恥ずかしい」「触られたら嫌だよ」と返答が変わり、水着で隠れているところは大切であることを理解していた。さらに嫌な時は、自分の思いを相手に言葉で伝えることやその場から逃げること、我慢せずに大人に伝えることを知り、自分の体を大切にするためにどうしたらよいかを学ぶ良い機会になった。</p>	<p>文部科学省生命(いのち)の安全教育動画教材(幼児)</p>
7	中	年長	健康	防災教室「様々な災害から命を守る行動」	<p>地震、台風、津波など、実際の様子を映像で見た。実際に映像を見る中で、子どもたちは建物が揺れる様子や、家の中で棚が倒れる様子を見て、自身が経験したことのない規模の災害に、恐怖を感じており、「地震って本当に危ないんだね」「お家が倒れたらどうしよう」と不安そうに話をしていた。日々災害を想定して避難訓練を実施しているが、子どもたちの中にはイメージがわからず、実感がもてない子もいた。しかし、防災教室後は意識が高まり、訓練の参加に真剣さが感じられ、足を怪我すると避難できないことを意識し、上履きを正しく履くことを友達同士で知らせ合う姿が見られた。命を守る行動について話を聞き、災害を身近に感じ、命の重さについて考える機会となり、子どもたちの行動に変化が生じた。</p>	<p>・講師は、秦野市防災課の職員。</p> <p>・パワーポイントを使用し、映像やイラストを織り交ぜた分かりやすい説明だった。</p>

8	中	幼複合	健康	幼児防災教室 秦野市防災課による防災教室を実施した。当園の地域は土砂災害警戒区域にあたるため、毎年土砂災害をテーマにした防災教室を実施したり、避難訓練を行っている。職員間では、ハザードマップを確認したり、地区の地形と危険個所の周知し崩れやすい場所を確認している。子ども達は、「どしゃさいがいつてなあに～みんなでももるやくそく～」というテーマで土砂災害や洪水等自然災害の恐ろしさや命を守るための行動について講師の方からスライドを使って具体的に教わった。子どもたちは、山が崩れる画面や川に木や車が流れる画面を見て真剣な表情で見ている。中には、テレビのニュース映像を覚えていた子もいて「台風で水がいっぱいになった」と話す子もいた。土砂災害の種類や命を守るための行動について教わり、みんなで守る約束の「た・い・や・き」を声に出して確認し合った。また、話を聞いた後、園舎の周りを実際に歩き、危険な場所を子ども達と確認した。今回は基礎的なことを教わったので、2月には就学を前にした5歳児を対象に応用編の「どしゃさいがいからいのちをまもる。～いまみんなができること～」の防災教育を計画している。今回の経験で子ども達は、映像を見たり、実際に危険と思われる場所を見たりしたことで命を守る行動の大切さを知るきっかけとなった。これからも、園全体で防災意識を高め、命を守る行動について共に考えていきたい。また、子ども達の防災意識の向上へ繋がるよう、園、保護者、地域で連携し取り組んでいきたい。	<講師> ぐらし安全部防災課
9	中	年長	健康	きゅうりの葉っぱが変だよ 5月に年長児が夏野菜の苗を買いに行き、後日、園の畑に植えた。子どもたちの意欲は高まり、その後の水やりなどの世話も主体的に行っていた所、ある園児がきゅうりの葉が変だと気づく。すると別の園児が「僕のお爺ちゃんの畑のきゅうりの葉と違う」という話から、その園児の保護者の協力を得て年長児が畑を見学させて頂き、原因と対策について教えてもらった。実際に栽培ハウスの中に入り健康に育っているきゅうりとトマトを見て、虫よけのネットを張ると良いことを聞いて実践する。6～7月には沢山の野菜が収穫できて、きゅうりの浅漬けやナスの味噌汁、ピーマン炒め等、園で食べることが出来た。夏休み前にお世話になった園児の祖父を招待して収穫した野菜の料理と一緒に食べ、感謝の気持ちに包まれた。	
10	県西	年長	健康	誕生日 おめでとう 友だちの誕生日を自分の誕生日と同じくらい楽しみにし、「明日〇〇くんのお誕生日だね♪」と楽しみな気持ちを伝え合っていた子どもたち。当日には、誕生日を迎えた友だちに「おめでとう！」と声をかけた。誕生会では、保護者も参加し、誕生児の『名前の由来』について質問した。保護者からの話が終わると「名前には意味があったんだね」「すてきな名前だね」と友だちを認める言葉が多くあった。また、「家に帰ったらお母さんに聞いてみよう」と、自分の誕生や名前の由来に興味をもつ幼児が多くいた。	
11	県西	年長	健康	自分の命 年長組の誕生会では、保護者の方にも参加をしてもらい、生まれた時の話や名前の由来などを聞き、6年間自分が大切に育ててもらったことを実感するとともに、学級の友達のことをより知る機会となっている。生まれた時の写真を見ると、「小さくて、かわいい。」「こんなに大きくなったんだ。」と声があがる。保護者の方の胸いっぱいの思いを聞くことで、自分が愛されて生まれてきたことや成長を感じる機会になっている。	

12	県西	年長	健康	速く走るのに必要な力	<p>運動会に向けた活動に毎日取り組んでいた9月頃。年長児が行う色別リレーで、学年で1番走るのが速いA君がいるチームがよく1位になっているということが振り返りの話題にあがった。そんな中「私はA君みたいに速く走れるようになりたい。」という子がいたので、「A君はどうして走るのが速いんだろう？」と保育教諭が問いかけた。体の使い方や気持ちの持ちよう等、様々な意見が上がる中で、B児が「野菜を沢山食べられるようになったからじゃない？」と発言すると、「あー！そうかも！！」とクラス全体が納得した。クラスのほとんどが3歳児クラスから共に過ごしているのでA児が大の野菜嫌いであることを知っている。現担任も3歳児クラスの時に担任していたこともあり、3歳児だった頃のA児と現在のA児の給食中の姿の違いと運動量や能力の違いを比較する流れになった。苦手な野菜を頑張って食べてきた努力と運動会などで大活躍できる運動技能がつながっているA児の今の姿をクラス全体で認められるように言葉を掛けると「野菜がパワーになるって本当だったんだ。」「じゃありレーとかけっこでA君が1位になれるのは、野菜パワーとA君パワーの合体技なんだね！」とこれまでの栄養指導や絵本などで知った知識が実例として子ども達なりに認識でき、新しい発見をする経験になったようだった。</p>
13	県西	年長	健康	食育 「大根販売をとおして」	<p>11月に大根を120本収穫できたことから、子どもたちと相談し保護者に売ることになった。園まで大根をどのように運ぶか、どのように売るか、いくらで売るか、そのお金はどうするか、必要な物は何かなど、子どもたちと考えながら数日間かけて準備を進めていった。大根販売をとおして、収穫の嬉しさや楽しさだけではなく、準備の多さや大変さも知ることができた。また、子どもたちは「いただきます」という言葉には、「命をいただく」という意味だけではなく、野菜を育ててくれた方、運んでくれた方、料理を作ってくれた方など、携わってくれた方への感謝の気持ちが込められていることに気づくことができた。子どもたちにとって、豊かな心を育むための学びの場となった。</p>
14	県西	年中	健康	食育 「柿パーティーを開いたよ」	<p>園庭に柿の木がある。柿を「幼稚園のみんなで食べたい。」「柿パーティーをしたい。」と子どもたちから出てきた。数えると50個で、105人の園児と食べるには数が足りないことに気づいた。「包丁で小さく切れば食べられるよ。」と、みんなで柿を食べる方法を考え、柿もぎ・柿パーティーの計画を立てた。包丁が扱えるか心配な様子だったため給食の先生に方法を聞いたり、家庭で包丁を練習したりした。柿パーティー当日。自分で切る楽しさを感じ「もっと切りたい！」と何度も繰り返し挑戦していた。お客さんに「柿おいしかったよ」と言われたこと、全員で柿を食べられたことで「パーティー大成功！」と大喜びだった。その後、幼稚園に柿の木を増やしたい思いから、柿の種を園庭に埋め「はやく芽を出せ柿の種〜！」と芽がいつ出るか楽しみにしている。</p>

15	県西	幼複合	健康	<p>特別な存在だと気づいたカメ吉</p> <p>亀のカメ吉を園で育てることになり喜んで世話を始めた子どもたちだったが、ある日、脱走して行方不明になった。好きな食べ物を用意したり、ポスターを描いて探してもらおうとしたりするなど、必死に探したが見つからなかった。ある5歳児が『新しい亀を飼えばいいんじゃない？』と提案したが『新しい亀とカメ吉はみんなにとって同じ亀なのかな？』と問いかけると『カメ吉は特別』だと気づく姿があった。その後もカメ吉を忘れず思い続けている姿を見て、新しい亀“マル”を迎え入れた。『カメ吉も大切だから、マルも大切』であり、生き物を特別に思った経験が、生き物を大切に作る心の育ちにつながった。</p>	
16	県西	幼複合	健康	<p>避難訓練の学びから</p> <p>4月から毎月避難訓練を実施し、頭を守る為の「ダンゴムシのポーズ」、避難の際の「お・か・し・も」の約束など、地震や火災における避難の仕方や約束を少しずつ積み重ねてきたことで、子ども達にすっかり定着しているようだった。</p> <p>3学期を迎えた1月、給食時に地震が発生した。急な出来事であったが、子ども達は慌てることなくすぐに机の下にもぐり、身の安全を確保した。ダンゴムシのポーズを自らとっている子もおり、日頃の訓練の成果が出た瞬間であった。子ども達にとって印象深い出来事だったようで、降園の際に保護者に地震のことを話す子どももいた。災害はいつ起こるか分からないことを身を持って体験した機会となった。</p>	